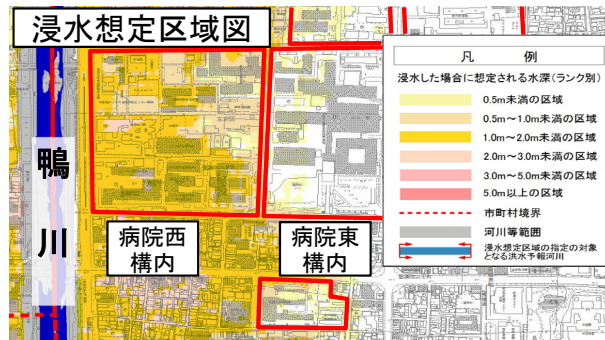
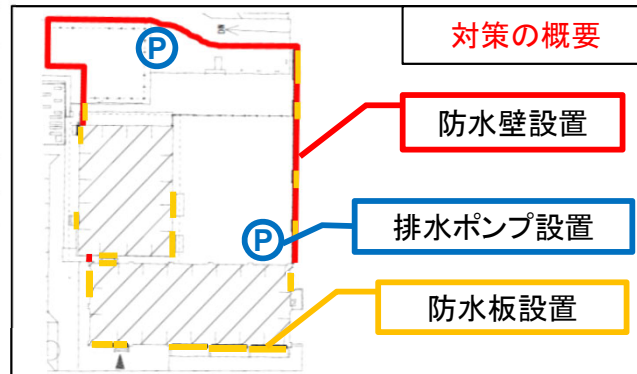
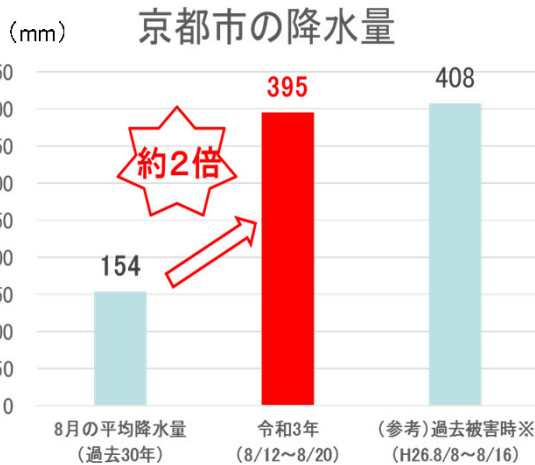


防水壁等の設置により大学病院の機能停止を回避(京都大学)

- 鴨川の浸水想定区域内にある京都大学医学部附属病院には、電気・水等を供給する重要なインフラ設備があり、浸水被害により病院機能が停止するおそれ。
- 建物内への浸水を防ぐため、建物の出入口に想定水位以上の高さまで防水板を設置。さらに、屋外へ設置されている設備の周囲に防水壁と防水板を設置するとともに、浸水した場合にも排水できるよう排水ポンプを整備。
- 令和3年8月の大雨では附属病院構内で冠水が発生したが、特高受変電設備及び自家発電設備への**浸水被害はなく、病院への電力供給停止を回避し、医療提供を継続。**



事業	対策内容	事業費	対策期間
3か年緊急対策	防水壁・防水板設置及び排水ポンプ整備	約0.4億円	R2



⇒激甚化しつつある自然災害への対策を実施することにより、災害発生時においても診療活動の継続性を確保

⇒これにより、災害時の患者受け入れ等、災害医療拠点として地域社会への責務を果たす

※ 過去H26.8の大雨にて病院(左京区聖護院山王町)近隣の同区聖護院山王町及び聖護院西町で床下浸水被害